

ふたかみ NEWS プチトマト

古着市開催します！
詳細4面



9月23日(木)の開所日に、焼き芋をしました♪
焼き上がりまで待ち遠しく、「まだかな～」とみんなウキウキしながら様子を見に行っていました。出来立ての焼き芋は、ホクホクでおいしく食べることが出来ました！（辰己）

社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0856 大阪府羽曳野市白鳥3-16-1 木村ビル4階 TEL 072-959-3221 FAX 072-957-1604

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



古着市

ミニバザー（雑貨・食器等）もあります！

11月13日（土）10時～14時

場所：翠鳥園遺跡横空き地

雨天中止 前日9時に判断いたします。

感染対策を十分に取って開催いたします。ぜひ会場へお越しください
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況などにより、内容の変更や中止の可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

このまちで暮らしたい
「障害者生活工房」（グループホーム）
—建設募金のお願い—

2022年6月open予定！！
新しい暮らしを支える拠点として…

建設募金へのご協力よろしくお願い致します。

◆郵便振替◆

【口座番号】 00950-3-225417

【加入者名】 社会福祉法人 ふたかみ福祉会

◆銀行からゆうちょ振込◆

【金融機関コード】9900【店番】099【預金種目】当座

【店名】〇九九店（ゼロキユウキユウ店）

【口座番号】0225417

「グッジョブチケット」

新型コロナウイルスワクチンの接種を終えられた方に羽曳野市内の登録店舗で使用可能な商品券（おひとり様2,000円分）が受け取れます！

※詳しくは、羽曳野市のホームページを検索♪

カフェ ハビボールでも使えます！



■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

【2021年度9月】

・西田佐知子 森和寛

.....以上5口

・関口耕一郎

.....以上4口

・辻敏之 辻まち子 辻敏哉 辻摩美 高瀬美代子 上田利恵子 稲屋良美 石田陽喜 石田美恵子
宮野直子

.....以上1口

■ボランティア であい様／畑英作様／細川直幸様／松倉和代様／垣内秀夫様

■アルミ缶回収（9月分） 1016 kg

ありがとうございました

◆2021年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

法人ではグループホーム建設が始まっています。

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口3,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

障害者生活工房 地鎮祭

「障害があっても」のまちづくりしたい」

慣れ親しんだ人・環境・地域の中で誰もが当たり前の生活が実現するようなグループホームがほしい、そんな家族の切実な声を受けとめ、具体的な計画を進めてきました。そしてふたかみ福祉会としても、障害者権利条約の実現に向け「障害があってもこのまちで暮らしたい」という願いを広げる拠点として位置づけていこうと、2022年6月開所に向けてのグループホーム建設工事が始まります。

9月10日には、壺井八幡宮様に来ていただき、地鎮祭をおこないました。

地鎮祭をおこなうにあたっては、今回建設していただく花谷建設株式会社様から、何回も打ち合わせをしていただき、当日

は設計を担当してくれている「アロ ユー」様、法人の理事長始め、理事・監事、後援会の役員や家族会の役員、そして入居予定の仲間代表も参加しました。

「大安」という日柄のよい晴天の中、式典は始まりました。仲間は「玉串奉奠」をおこなうので、式典が始まる前からドキドキ。事前に少し練習をしながら本番を迎えました。残暑が厳しい中、少し汗をかきながらの式典となりましたが、様々な「儀」を滞りなく無事に済ませることができ、参加者一同、工事が無事におこなわれるよう、無事に建物建設されることを願って、式典を終えました。

(関口な)



建設募金にご協力をよろしくお願い致します。

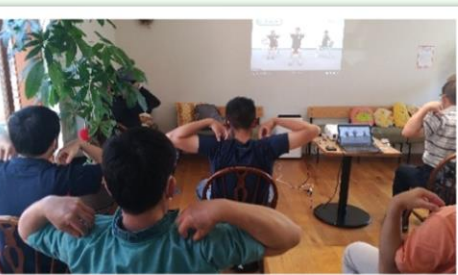
はるクラブ

「カフェ&健康づくり いきいき体

支援センターはる（南河内北障害者就業・生活支援センター）に登録されている一般企業に勤めている方々の余暇活動をハピバールで開催しました。

コロナ禍で、なかなか外出もできず運動不足になっている状態をどのように克服しようか？でも急に筋トレをしたり走ったり、ジムのトレーニングのようなことをするのは逆に体に負担をかけてしまうかもしれない。何よりもみなさん後ろ向き。

そこで思いついたのが体操です。それも体をほぐすことにより気分もよくなり、リフレッシュ効果があるストレッチ体操はどうかと考え実施しました。数多くあるストレッチ体操の中から誰にでもできる簡単な体操を選び、立位でするものと座位でするもの、約20分ずつ行いました。ゆっくりとした動きの中で筋肉の筋を伸ばしていく体操なので運動不足等で固まった体をほぐすことができ、みなさんほぼ疲労感もなく良い運動になりました。そして体がほぐれた後には、みなさんお楽しみみの力



く、みなさんお楽しみみの力

フェタイムです。

各々が選んだケーキとドリンクが目の前に運ばれてきた時には、みなさん本当に嬉しそうな表情をされていました。感染予防対策の為、食事中は会話を控え、食後に全員マスクをしての会話となりましたが仕事の事や家の事、趣味の事等、様々な話をするのも楽しいひとときが過ごせました。

コロナ禍により様々な規制がある中、閉塞感を感じる日々が続いています。ただそんな中でも感染予防対策をしっかり行い少しでも気持ちが楽になりたり人との繋がりを維持するような機会や場所を提供していきたいと考えています。（大竹）

職員研修ステップアップ講座

9月18日の土曜日に、「障害福祉ステップアップ講座」の1回目がありました。講師は立命館大学の田村和宏先生で、2年前から昨年までの基礎講座のステップアップを目的とした講座です。

今回のテーマは『障害のある人の家族を受け止める』というテーマで、グループワークと読み合わせ、読み合わせた資料に基づいた意見交換を行いました。

最初のグループワークでは、2つのグループに分かれて利用者の親とどのような話をする事が多いか、親が障害のあるわが子に望むことは何か？について話し合いました。その中で、親の思いとしては、グループホームに入ることが出来るかどうか、自分たちが亡き後、障害のあるわが子がどうなるかなど、年代を問わず「障害のあるわが子のこれから」について懸念している声が多いことがわかりました。

読み合わせは、『殺す親、殺させる親』（児玉真美氏著）と、

ゆったり班のお寿司

この度、ゆったり班では大阪知的障害児者生活サポート協会様から補助金を頂き、季節の取り組みとしてお寿司の取り組みを行いました。



感染症対策の観点から外食が出来ないのはもちろんですが従来から障害の重度さから入りづらい飲食店があるのが現状です。

そのこともあり、今回はカウスターのお寿司屋さんをイメージして準備を進めていきました。寿司ネタのフダやのれんづくりに始まり、一か月をかけての取り組みとなりました。一貫一貫握られるお寿司に不思議な顔をする仲間や期待感から「いただきます」と手を合わせる仲間も。普段味わることの出来ない味覚、雰囲気は大満足の一日でした。ご協力いただきました板前の高橋さん、助成金を出してくださった生活サポート協会様ありがとうございました。（田岡）

夏祭り

グループホームでは、このコロナ禍で、自分でうまく時間が過ごせない、楽しみなどを見つけないのが難しい仲間、何か楽しいことができないかと考えました。そこで考えたのが「夏祭り企画」です。

職員が法被を着て、河内音頭を流してお菓子やラムネを配り、少しでも夏祭りの気分を味わってもらえたらと取り組みました。

仲間は、いつもいる職員が法被を着て現れた事に「どーしたん？」「なにになに？」と驚きの表情。ラムネとお菓子をもらって笑顔になりました。

「コロナの時にいい気晴らしになったわ。」など楽しい声が聞かれたり、ラムネの開ける音にびっくりにしていたりと、もらったそのあとも喜んでいいる様子が見られました。

仲間がこのコロナ禍の中、少しでも楽しい気持ちや気分転換になれるよう、また楽しい企画を考えていきたいと思っています。（松田）

『子ども・若者ケアラーを支える』（斎藤真緒氏著）を読み、各自で文章の中の気になった箇所について意見交換をしました。前者の文章では、障がいのある子どもを持つ親の視点から「親亡き後」について、後者の文章では最近メディアで取り上げられることが多かった「ヤングケアラー」についての文章でした。

「親亡き後」と「ヤングケアラー」という問題は、一見共通点が無いように思いますが、どちらも「自分の家族の問題だから、わたしが頑張らなければ」という考えから、相談することも出来ず、「自分」としての生き方というよりは、「親・家族」としての生き方を選ばざるを得ないケースが多く、そういった点が共通しているようにも思えます。また、現在国が進めている自助・共助・公助の福祉政策はそういう問題を増やしてしまうのではないかと危機感を覚えました。

残りの講座もしっかり自分の中に落としこみ、日々の実践につなげていきたいと思っています。（波多江の）